

第1回泉崎村地域創生・人口減少対策委員会 議事録

1 日時

平成27年11月10日（火） 13時15分～15時20分

2 出席者

（委員）小林勝衛委員長、山田睦子委員長職務代理者、小池幸夫委員、堀信幸委員、兼子竜三委員、安藤政則委員、古川雄二委員、高橋裕三委員、長久保重行委員、小林成吉委員

（泉崎村）村長、副村長（以上事務局）

総務課長、総務課企画財政グループ長、総務課企画財政グループ主任主査

3 議題

- （1）地方創生の概要
- （2）村の人口動向分析
- （3）人口ビジョン検討のための人口推計シミュレーション
- （4）村の地域創生に関するアンケート調査報告
- （5）人口ビジョン及び総合戦略の全体イメージ
- （6）今後のスケジュール

4 決定事項・確認事項

- （1）議題(1)～(6)について、事務局から説明があった。
- （2）地域創生・人口減少対策で取り組むべき点などについて、各委員から意見が出された。
- （3）この委員会では来年2月までに人口ビジョンと総合戦略を取りまとめ、3月議会に報告する予定との説明が事務局からあった。

5 発言者名、発言者ごとの発言内容

以下のとおり

<p>司会(総務課企画財政グループ長)</p>	<p>－開式－ 皆さんこんにちは、定刻となりましたので始めさせていただきます。本日は、大変お忙しい中、泉崎村地域創生・人口減少対策委員委嘱状交付式及び第1回泉崎村地域創生・人口減少対策委員会にお集まりいただきありがとうございます。私、本日の進行役を務めさせていただきます総務課企画財政グループ長の緑川と申します。どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>司会</p>	<p>－委嘱状の交付－ それでは、委嘱状の交付を行います。大変恐縮でございますが、お名前をお呼びいたしますので、前の方にお進みいただきたいと思います。 (村長から委員へ委嘱状の交付)</p>
<p>司会</p>	<p>－閉式－ 以上をもちまして委嘱状交付式を終了いたします。ありがとうございました。</p>
<p>司会</p>	<p>－開会－ 続きまして、第1回泉崎村地域創生・人口減少対策委員会を開会いたします。はじめに泉崎村長久保木正大よりご挨拶申し上げます。</p>
<p>久保木村長</p>	<p>－村長あいさつ－ 本日は、第1回泉崎村地域創生・人口減少対策委員会の開催を皆さんにご案内したところ、大変お忙しい中、ご参集を賜りまして心から御礼を申し上げます。 まさしく今日が第1回目で、これから終わりまでという委嘱期間ですけれども、お世話になるかと思いますが、まさしくこの組織の名称のように地域創生、泉崎村の地域をこれから創生するため、あるいは人口減少、これからどうやっていくかと非常に大きい課題の解消を皆さんと共に考えていきたいということで、もっとも重要な中身だろうなと私は認識しておりました。 この委員会そのものも国でようやく腰を上げて、都市部の人口問題、活性化の問題というのは、さほど問題ではなくきている訳ですけれども、地方にとっては、このことは人口問題、特に少子化問題</p>

については顕著でありまして、ほおってはおけないということで、まさしく国を挙げての問題だという国の方で、ようやく腰を上げた所でありまして、この末端の町村でもこういった、組織を作って、真剣に考えてほしいこととございます。

泉崎村も5か年の総合計画というものをたてておりますけども、その中で人口対策を掲げております。

現在6500から6600くらいの間を推移している訳でありますけれども、目標7000人ということで設定しておりますけども、ここ10年来の動向を見ましても、それは、目標達成どうなるかなと、減少しております。

ただ、管内の東白川郡、あるいは福島県の中でも会津地方といったことは、人口減少は目立っております。

それに比べますと、西白河郡は割と減少率はなだらかだということが言えると思います。

しかし、減っていることに変わりはありませんで、毎年、出生率、あるいは死亡者の数からいきまして、30人から40人は確実に毎年減っていることが現実でございます。

非常に小さな数値であります、10年単位で考えると、300人400人となって6000人規模の村にとっては大変な問題で、ございます。

これからなおさら出生率から考えると、あるいは若い方の結婚している状況から考えますとこれ以上の状況が予測されますので、やはり人口の減少というのは、経済面も含めて活性化に一番影響があるということでもありますから、深刻に受け止めなくてはならないなと思っておりますし、我々行政も子育て支援の問題、少子化対策を議会と共にスタートをきっておりますけども、真剣に考えていかなければならないと思っております。

地方消失という本が増田さんが出しているが、今、全国で1800前後の市町村がございまして、そのうちの半分くらい900位は消滅するだろうといわれている。

統計学的にいわれているので、割と現実味を帯びた数値なんですね。

その中で各市町村単位で細かく数値を出しおるんですが、福島県は原発の問題で、福島県は想定しにくいということで、数値からは除かれています。

ですから泉崎村がどのようになるかは、本の中では出てこなかったんですが、その他のところは減少率を考えたりして、本当に深刻だと、よその県も含めてですので、真剣に取り組むといことで、私は、小さな単位で、小さな問題解決しても一時的な問題、あるいは、

管内、県南地区を考えた場合でも、どっかで増えてどっかで減る、その奪い合いをいかにするかという小さな話になってしまうんですね。やはり人口対策というのは国策であると思っています。

ですから国が本腰を入れて出生率を上げるとか子育て支援、教育問題とか、国で深刻に考えていかないと解決しないと思いますので、我々も中央に訴えていきたいと思っておりますけど、しかし、これをそんなことのせいにして、ほおっておいたら市町村の中での競争に負けてしまうということもあると思います。

地域でできることはいっぱいあると思います。このことを精一杯やっていききたい。

いろんな知恵を出し合えば活動について、他所よりいいアイデアになってくる。地域として取り組むことも大事だと思います。

我々は泉崎村のために何をやっていくか、それこそ出会いの場を提供するとか、いろんなことができるかと思いますが、一つ一つ積み重ねて参りたいと思います。

3月までには議会に諮りたいと思いますので、大筋の中身について、まずは創り上げていくということが、最初だということでありますが、私は機会があるごとに集まっていただいて、いろんな意見を出し合っていて、あ、それもいい、これもいい、ということをどんどん積み上げていって、それを実行していくということが大事だろうと思っております。

でありますから途中で、義務的なものがない、あるいは、そういった会を開かないということになりますと、あまり意味のない組織になってしまうのかなと思っていますので、われわれ行政でリーダーシップは取って参りますけども、ぜひとも皆さま方に集まって、言っていただく機会を多く設けたいと思っておりますので、常日頃から、いろんなことを考えていて、いただければありがたいな、そして、極力実行していければ、少なくとも現状維持は確保したいなと強く思っております。

そういった事を含めて、これから皆さんにご理解とご協力、積極的なご意見をいただければ、ありがたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

— 委員紹介 —

次に委員の皆さま方をご紹介させていただきます。お手元にお配りしました名簿の順にご紹介させていただきます。

秋山錠剤 株式会社 福島工場長 小池幸夫様。

司会

小池委員

小池でございます。よろしくお願いいたします。

司会	株式会社 朝日ラバー 管理本部業務グループ部長 堀信幸様。
堀委員	堀です。よろしくお願いいたします。
司会	泉崎村農業委員会 会長 小林勝衛様。
小林勝衛委員	小林です。よろしくお願いいたします。
司会	なお、4番目の福島県農業総合センター農業短期大学校の味戸裕幸様は都合により欠席です。次に泉崎村教育員会 教育委員長 山田睦子様。
山田委員	山田です。よろしくお願いいたします。
司会	6番目の株式会社 東邦銀行 佐藤恭央様は欠席でございます。白河農業協同組合 泉崎支所長 兼子竜三様。
兼子委員	兼子です。よろしくお願いいたします。
司会	認定農業者会 会長 安藤政則様。
安藤委員	安藤です。よろしくお願いいたします。
司会	福島民報社 白河支社長 古川雄二様。
古川委員	はい、古川雄二と申します。よろしくお願いいたします。
司会	福島民友新聞社 白河支社長 高橋裕三様。
高橋委員	高橋です。よろしくお願いいたします。
司会	11番目の泉崎村婦人団体連絡協議会の三村成子様と泉崎村商工会の野崎靖之は都合により欠席です。泉崎村民生児童委員協議会 会長 長久保重行様。
長久保委員	はい、長久保でございます。よろしくお願いいたします。
司会	泉崎村消防団 団長 小林成吉様。

小林成吉委員	小林です。よろしくお願いいたします。
司会	つづきまして、事務局及び村執行部を紹介させていただきます。まず、村執行部、泉崎村長 久保木正大。
村長	はい、どうぞよろしくお願いいたします。
司会	泉崎村副村長 岡部文雄。
副村長	はい、よろしくお願いいたします。
司会	総務課長 北澤茂。
総務課長	はい、よろしくお願いいたします。
司会	総務課企画財政グループ 主任主査 松山富継。
総務課企画財政グループ主任主査	はい、松山です。よろしくお願いいたします。
司会	私、総務課企画財政グループ 緑川でございます。よろしくお願いいたします。
司会	ー委員長及び委員長職務代理者選出ー 続きまして委員長及び委員長職務代理者選出に移りたいと思います。泉崎村地域創生・人口減少対策委員会設置要綱第3条第2項におきまして、「委員長は村長が指名する。」と定めておりますので、久保木村長から委員長の指名をお願いいたします。
村長	はい。それでは私から指名をさせていただきます。泉崎村農業委員会、会長の小林勝衛様をお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。
司会	ただいま村長から小林様を指名させていただきましたが、小林様よろしいでしょうか。
小林勝衛委員	はい、かしこまりました。

司会	次に、泉崎村地域創生・人口減少対策委員会設置要綱第3条第4項におきまして、「委員長職務代理者は委員長が指名する。」となっております。ただいま委員長に指名されました小林委員長から職務代理者を指名していただきたいと思います。
小林委員長	はい。泉崎村教育員会、教育委員長の山田睦子様をお願いしたいと思います。
司会	ただいま小林委員長から山田様を指名させていただきましたが、山田様よろしいでしょうか。
山田委員	はい、かしこまりました。どうぞよろしくお願いたします。
司会	どうぞよろしくお願いたします。ありがとうございます。
司会	－議事－
司会	続きまして、「議事」に移りたいと思います。議事につきましては小林委員長に進行をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いたします。前の方にお進みください。
小林委員長	一言ご挨拶もうしあげます。現在の我が国、地方を見ると一番の難問じゃないかな、この人口減少問題、その泉崎村の対策委員会の委員長に推挙いただきましたが、皆様のご協力のもと、村発展のために意義のある会議になればいいなと思っておりますので、よろしくお願申し上げます。 それでは、早速議事に入りたいと思います。 皆様にお配りの資料の中から1番から6番まで事務局から説明をいただいて、その後、皆さんからご意見を拝聴したいと考えておりますので、よろしくお願申し上げます。
総務課長	それでは、私のほうから地方創生の概要についてご説明させていただきます。 平成26年11月にまち・ひと・しごと創生法が施行されたところでございます。 第1条目的としまして、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正しそれぞれの地域で住みよい環境を的確に確保し、将来にわたって活力のある日本社会を維持するために、まち・ひと・しごと創生に関する政策を、総合的にかつ計画的に実施することが定められ

ています。

定義としまして、まず、まちとは、国民一人一人が、夢や希望をもち、潤いのある豊かな生活を安定して、営む地域を形成することとなっています。

ひととしましては、地域社会を営む個性豊かで多様な人材を確保すること。

しごととしましては、地域における魅力ある多様な就業の機会を創生すること。これらを一体として進めることとなっています。

皆さんのお手元にあります資料の1番、こちらの資料ですが、1まち・ひと・しごと創生法と人口ビジョン及び総合戦略の資料の中ほどにあるように、国では人口減少問題の克服としまして、2060年に1億人の人口を確保するため、また、成長の確保として2050年代に実質国内総生産成長率1.5%から2.5%程度、維持するとしまして、長期ビジョンを作成しております。

この長期ビジョンに対しまして、2015年度から2019年度までの5か年の総合戦略としまして、下の表にありますように、地方における安定した雇用を創生すること、地方への新しい人の流れをつくること、若い次第の結婚・出産・子育ての希望をかなえること、4つ目としまして、時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携することを、基本項目として設定しております。

で、これら設定した基本項目の実現のために、様々な施策を行うこととなっております。

これに基づきまして、地方におきましても市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定することが努力義務となっております。

こちらの資料の後ろのページをご覧ください。

今、ご覧になっている資料の裏面に2まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則があるかと思えます。

こちらの使用にありますように、地方に置きしても4本の基本方針、地方における安定した雇用の創出、地方への新しい人の流れの創設、結婚・出産・子育ての希望実現、安心な暮らしと地域の連携が同じように基本目標がありまして、これに対しまして自主性と将来性、地域性、直接性、そして結果重視したカリキュラムとして、こちらに向けて作成することとなっています。

これらの5原則の実現に取り組むわけですが、本村におきましては、現在、住民アンケート調査を行いまして、集計、分析の作業を進めている状況になっています。

これらの状況について、皆さんのご意見を拝聴しながら今後5年間の総合戦略を策定し、村の振興計画の実現と併せまして、各種施

総務課企画財政グループ主任主査

策を進めることとなっておりますので、よろしくお願いいたします。
以上で概要の説明とします。よろしくお願いいたします。

では、つづきまして、議題の（２）村の人口動向分析についてご説明します。

事前にお配りしました、泉崎村人口動向分析という資料をお出しください。

一枚めくっていただきまして、１ページの泉崎村の人口の現状なんですが、下のグラフを見ていただきますと、昭和２５年に６９５７人と人口のピークを迎えておりまして、その後、昭和５０年度まで人口が減少しております。

これは、国の高度経済成長に伴う首都圏への人口の流出が、主な原因と考えられています。

その後、上昇に転じたんですが、これは八雲神社とかの住宅地の分譲があったことが、要因となりまして増加に転じておりますが、その後、減少、横ばいといった現状になっています。

次のページに移りまして、②人口構成比についてのグラフなんですが、下のグラフになります。

一番左側が昭和５５年で、濃い青のところは０歳から１４歳までの年少人口、上の白い所１２．３％となっているところが老年人口になっています。

今度は、グラフの１番右側に行きますと、平成２２年の人口の割合になっていますが、濃い青の年少人口が１４．１％、白い方の老年人口が２４％となっておりまして、泉崎村におきましても、少子高齢化が進んでいるという状況となっております。

次のページの下の方のグラフ、これは平成２２年の泉崎村の年齢を５歳ごとに区切ったグラフとなっております、他の自治体でもそうなんですが、５０歳から６４歳までの団塊の世代と言われる方の人口の構成が一番多くなっているという状況です。

次のページに移りまして、４ページ、人口動態の説明です。

①自然動態というのは、生まれた人数、出生の人数と死亡した人数の推移となっております。

黒い折れ線グラフが、出生から死亡者を引いた数字で、泉崎村では、平成２１年から平成２５年度まで全てマイナスの数字となっております、自然動態としては、減少が続いている状態となっております。

次の②社会動態につきましては、転入者と転出者の差を表したグラフになっています。

黒い折れ線グラフが、その差を表してございまして、平成２２年と平

成24年度は若干プラスになっておりますが、全体としてみれば、マイナスになっておまして、社会減となっております。

次の5ページの(3)要因別分析になりますが、出生の状況ですが、紫色の実線のグラフが、泉崎村の合計特殊出生率で、その下にある棒グラフが出生者数ですが、出生している人数は、それほど変わらないんですが、出生率については、若干減少しているようになっておまして、特に24年と25年の出生している人数は、変わらないんですが出生率が下がっているんですが、これは女性の人数、分母が増えたので割合が下がっているためです。

これは村という小さい規模ですと、分母のちょっとした人数の変化でも変わってきます。

次のページに移りまして、6ページの上の方のグラフは、女性の有配偶率、要は結婚しているかどうかのグラフになっておまして、全国平均と福島県に比べて、すべて上回っている状態になっております。

次のページ7ページの③転入・転出の状況なんですが、青い方が男性、赤い方が女性のものになっておまして、男性の方は転入が78人、転出が87人、女性が転入が72人、転出が78人となって、両方とも転出が転入を上回っている状態になっております。

次の8ページに移りまして、転入・転出の状況をまとめたものが、こちらのグラフになっておまして、転入転出ともに白河市に行く方、来る方が一番多くなっております。

意外なところでは、東京都から転入転出が一番多くなっております。

次のページ、その他の分析①通勤・通学の状況なんですけど、上の表は、泉崎村の方がどこに通勤しているかを表した数字になっておまして、村内の方が村内に通勤通学されている方が1612人、村内の方がよその市町村へ通勤通学されている方が2059人、合わせて3761人なっています。

下の表に移りますと、泉崎村からよその市町村に通勤通学されている方が2059人、よその市町村から泉崎村に通っている方が2792人となっております、泉崎村から出ていく方より、泉崎村に来る方の方が多いような状況になっているので、この状況を地方創生の施策に活かしていければと思っております。

次のページに移りまして、産業の状況なんですけども、上の方のグラフなんですが、一番上が国、2番目が福島県、一番下が泉崎村になっておまして、泉崎村は1次産業と2次産業が、国、県と比較して高い割合になっておますが、その分、3次産業の割合が低くなっているという状況です。

その1次産業と2次産業についている方の人数を次のページで示しておりまして、上の方のグラフは、村内在住者がどこで働いているかを示したグラフになっておりまして、一番左側の製造業の場合ですと、村内の方が村内で働いている方が516人、村内の方が村外で働いているのが624人、合わせて1140人。

次の農業と林業についてなんですが、林業で働いている方はほとんどいらっしゃらないので、泉崎村の場合は農業と考えていただいて大丈夫なんですが、村内で農業をされている方が429人、村外で農業をされている方が37人、合わせて466人となっています。

下の方のグラフは、村内の企業で従事している方の人数を表したグラフになっておりまして、一番左は製造業のグラフで村の人が村内で働いているのが516人で、よそから泉崎村に来ている方が1930人、合わせて2446人となっております。

農業の方は、泉崎村の方が泉崎で働いているのが429人、よその市町村から来ている方が31人、合わせて460人で、泉崎村の基幹産業は、製造業と農業だということが分かると思います。

以上については人口動向分析の説明です。

続きまして、人口ビジョン検討のための人口推計シミュレーションについてご説明します。

まず1枚めくっていただいて、1ページ目のところで、趨勢人口と戦略人口とあるかと思いますが、中ほどのグラフの説明ですが、趨勢人口というのは、総合戦略を実施しないでいきますとこのようになりますよと推計した人口になりまして、戦略人口の方は、総合戦略を策定してそれに伴う事業を実施した場合は、このような推計になりますよと推計したものが戦略人口になります。

グラフのすぐ下に一般論としてはとあるかと思いますが、国立社会保障・人口問題研究所、略して社人研といいまして、これからたくさん出てきますので、略して社人研として説明させていただきます。

泉崎村の場合なんですが、社人研の推計方法による推計と、社人研の推計は国勢調査によるものを使って推計しているんですが、泉崎村の現在の人口を正しく捉えようとする、国勢調査の人口に毎月の転入転出の数をプラスマイナスしていった数字があるんですけども、その数字が下の方にあるんですが、2015年8月1日現在で約6500人となっております、社人研の推計によると2015年10月1日時点の人口は6773人となっていて、もう既に推計と実際に人口に大分ズレがあるということで、事務局としましては、実際の人口をベースに推計をしていきたいと考えていまして、それを趨勢人口として、資料の中で説明していきたいと思います。

次のページに移りまして、人口推計の基本的な考え方なんですが、人口の変動は出生と死亡、転入と転出、出生と死亡が自然動態による変動、転入と転出が社会動態による人口の変動、この二つを合わせて人口変動を推計していきたいと考えています。

次の説明は下の方に移りまして、社人研推計とありますが、これが国から示されている推計の方法になります。

どういった仮定で推計しているかといいますと、出生については、全国の子供女性比と各市町村の子供女性比との比をとり、その比が2040年まで一定として市町村ごと仮定したものです。

死亡については55歳から59歳の方が60歳から64歳までになってときの全国と都道府県の生残率の比から算出される生残率を都道府県内市町村に対して一律に適用させ、60歳から64歳の方が65歳から69歳になって場合には、これに加えて都道府県と市町村の2000年から2005年の生残率の比から算出される生残率を市町村別に適用して求めているものです。

移動については、福島県においては震災の影響により転出超過を勘案し、2015年の純移動率を設定。2020年までに震災の影響が解消し以降は、2020年の値が継続すると仮定したものです。

これが社人研の推計になりまして、国が示している推計の方法なのですが、泉崎村としては、次のページご覧いただきまして、趨勢人口、先ほどお話したように移動のところですね。

社人研による国勢調査の数字による推計と実際はすでに減少の幅が広がってきているので、その現象の幅に併せて、率を補正しまして、補正した結果を趨勢人口として表しております。

下のグラフでオレンジ色の方が社人研の推計で出した人口になりまして、緑色の点線の方が趨勢人口で実際に併せ推計した人口になります。

2060年では社人研の方が4720人で、趨勢人口ですと3111人となり、多分、こちらの趨勢人口の方が実際の数値に近いと思われるので、人口シミュレーションと人口ビジョンに使いたいと思います。

それで次のページ、趨勢人口を踏まえた将来人口のシミュレーションなのですが、3パターン、それぞれ別の条件でシミュレーションしています。

Sim1は国が提示したシミュレーションで、趨勢人口をベースに出生率の上昇を見込んだ推計になっています。

泉崎村の出生率だと1.2%くらいだったと思いますが、それが地方創生の施策を実施することによって、2.1まで上昇するだろうということで推計したものがSim1の数字になります。

S i m 2は出生については、S i m 1と同じで、移動の所、移動がゼロ、均衡で推移すると仮定したもの、転入転出がゼロと仮定したものがS i m 2になります。

S i m 3は出生率が2.2までを上限としてシミュレーションしたもの、移動の方は趨勢人口における純移動率設定をベースに純定住率というものを新たに考えまして、生涯における純定住率が2060年までに1に上昇するように設定したもので見込んだものが、S i m 3になります。

そのシミュレーションの結果が6ページになります。

オレンジ色のグラフが社人研の推計のグラフ、緑色の点線が趨勢人口のグラフ、S i m 1が水色の三角マークの付いたグラフ、S i m 2が青い菱形のマークの付いたもの、S i m 3が赤い○の印の付いたものになっておりまして、S i m 1がS i m 2かS i m 3を地方創生を実施したことによって目標とする人口としたいと考えています。

これをどのように見込んでいくかを議論していただければと思います。

(4) 村地域創生に関するアンケート調査報告(案)についてご説明いたします。

2ページ目のところに、調査の目的と調査票の配布と回収状況とあるかと思いますが、今回アンケート調査は、平成27年8月に実施しておりまして、調査の対象となった方は10歳以上50歳未満の方の村民の方です。

1000枚調査票をお配りして、実際戻ってきたのが293票、回収率は29.3%となっています。

調査項目ですが、泉崎村について、人口減少における町づくりについて、結婚について、出産育児について、働くことについて、学生について、今後の進学・就職の希望について、ということでアンケート調査を実施しています。

その結果の中身につきましては、6ページをご覧ください。

中ほどのグラフで、泉崎村での居住状況ということを質問した結果ですね、一番割合が多かったのが、泉崎村以外の出身で現在は泉崎村に住んでいるが45.1%、泉崎村出身であるが一旦村外に転出し現在は泉崎村に住んでいるが21.8%、合わせると66.9%となってUターンIターンJターンの割合が高いという結果になっております。

転入してきた理由になるのですが、結婚のためが33.6%、通学・転勤・就職のためが26%とこちらが多くなっておりまして、あと注目したいのが、移住のためで17.9%が3番目に多い理由

になっております。

ですから、若い人を村に呼び込むという視点が大変重要になってくるというのが考えられまして、働く場の確保というのが重要になってきますし、移住者を積極的に取り入れることも有効な手立てになると思います。

次のページに移りまして、泉崎村の住みやすさについて、質問しております。

住みやすいとどちらかと言えば住みやすいを合わせますと57%となっているのですが、泉崎村での定住意向というところで、村外に引っ越す予定がある4.1%、引っ越す予定はないが引っ越したいというのが16.4%もあるので、引っ越したいとか引っ越す予定がある方を引き留めて転出を抑制するということが、重要になってくるのではないかと思います。

次のページに移りまして8ページ、泉崎村魅力は何ですかという質問なのですが、一番多いのがわからない、特にないが31.7%になっていまして、次が公園や自然環境が29.4%、その次が、道路・交通機関の順になっております。

わからないという方には、村のPRの仕方が拙かったということもあるかと思いますので、PRの法方法も検討していかなければいけないかなと思います。

泉崎村の魅力として、3番目に道路・交通機関が上がっていますが、下のほうの転出する理由としては、生活するのに不便・買い物・交通というのは1番になっておりまして60%ですから、泉崎村として、交通の便が良いというところが魅力なのですが、逆に交通が不便だから・活気がないというところを上げている方もいらっしゃるのでは、その点をどうしてくかが問題になっております。

次の人口減少を克服するために重視すべきことなのですが、子育て支援やワークライフバランスの充実による結婚・出産・子育ての希望をかなえる取り組みというところが一番多くて、64.8%、次が産業を振興し雇用を拡大させて経済を活性化させる取り組みというのを重視すべきだろうと思われていまして、若い世代が安心して子育てができるような、そして仕事も継続できるような取り組みが求められているだろうと思います。

次の独身の方の今後の結婚について、ということなのですが、1番多いのが、結婚の予定はないが結婚したいが55.6%ありまして、次のページをめくっていただきますと、重点的に取り組む結婚支援策として割合が高いのが、安定した雇用支援、若い夫婦への住まいの支援、となっておりますので、働く場所ですとか住む場所の支援があれば、結婚してくれるだろうということが想定されるの

で、そういった支援が必要になるのではないかと思います。

次の出産育児に対して村が力を入れるべきことなのですが、割合として1番多かったのが、各種助成を始めとする金銭的なサポートや現物給付が47.1%、次が子供を預かる時間、サービスの延長40.6%になっております。

泉崎村の現在の出生率は1.26で、国や県の平均よりも下回っているので、こういった子供を預けるサービスの延長や金銭的なサポートや現物給付に力を入れて、きめ細やかな支援が必要になるかなと思います。

次のページ11ページに移りまして、地域経済活性化に向けて取り組むべきことの回答なのですが、1番上の企業誘致及び起業しやすい環境の整備などによる新規産業の創出が1番多くて、49.8%次に多いのが学校企業と連携したキャリア教育の推進若者の人材育成27.3%、地域経済の活性化に向けては、雇用の創出と人材育成が大事なのだということが表れています。

次の将来的な泉崎村へUターンの意向なのですが、グラフの上の3つは卒業後すぐに戻る、働く場があればすぐに戻る、一定の時期が来たら戻る、と上の3つが戻りたい、真ん中の3つが戻る予定がないのグラフになっていまして、意外と戻る予定がない方がいらっしゃるのので、そういったところを減少させることがUターンをしてもらうために必要ではないかということがアンケートの結果として表れていると思います。

以上でアンケート調査報告の説明を終わりにしまして、次の人口ビジョン・総合戦略のイメージというところなのですが、A4の紙1枚に両面で印刷されてますものになります。

最初に泉崎村人口ビジョンの考え方案をご説明いたします。

人口ビジョンの考え方なのですが、まず、現状を把握しまして、それを分析して人口の将来展望をしていくものが、人口ビジョンの考え方になっていまして、現状の把握というところが、1番初めに説明しました人口動向の分析に当たりまして、真ん中の分析というのが、今回、実施したアンケート調査が当たるようになっていまして、人口の将来展望というところが、人口ビジョン検討のための人口推計シミュレーションが当たる形になっております。

人口の将来展望というところで、村の振興計画では人口7000人を目標にやっていたのですが、総合戦略のほうの人口ビジョンでは、既に人口は減少のほうに向かっておりますので、自然減対策、出生率向上による人口の維持するための施策ですとか、社会減対策、泉崎村だけでは転入転出を減少させるのは難しいと考えておりますので、働く場所の確保も考えまして、地域の実情をふまえて連携を実施

し地域に必要な施策を重点的に推進して、人口を増加に転じさせたいと考えています。

将来人口の展望というところが、社人研の出している数字で推計するのか、趨勢人口として出した厳しい数字で推計するのか、あとは地方創生を実施して村の人口をS i m 1でやっていくか、S i m 2を目標にするのか、S i m 3を目標にするのか、というところを話し合っただけならばと考えています。

今度は次のページをめくっていただきまして、泉崎村地域総合戦略のイメージ（案）なのですが、これは人口減少を抑えるために村が何をやっていくかというところを基本視点というところで考えまして、これは事務局が案として作成したものでして、これはいらないだろうとか、これが必要だろうとかいったものがあれば言っただけならば、訂正していきたくて考えています。

まず、基本視点としては、①人口減少そのものへの挑戦としまして、子供を産みたい人の希望をかなえることにより人口減少自体を解消しようとする試み、②人口減少社会への挑戦として、人口減少は当面継続するとして正面から受け止め人口減少に伴う地域変化に柔軟に対応し、人の流れを泉崎村に変えようとする試み、が大きな2つの視点になっておりまして、計画の期間は概ね5年間で平成27年から31年までを想定しています。

推進体制としては、P D C Aサイクルを構築するプラン・ドウ・チェック・アクションのサイクルを構築してやっていこうとするものです。

あとは、村民参加による推進、この委員会において戦略を立案、推進、評価、を実施していきたくて考えております。

基本目標としましては、大きく5つの項目を上げていまして、ひとをはぐくむ、ひとをつくる、ひとの流れを作る、安心をつくる、まちをつなぐ、としております。

この目標を達成するために、どういった施策をやっていくかというのが、隣にある主な施策になるのですが、事務局でこういったものが考えられるだろうというものを上げておりますので、今後話し合いの中で、追加とか削除とか、検討していただければと思います。

以上で全体イメージの説明が終わりまして、今後のスケジュールなのですが、A 4紙1枚で、スケジュールと書いてあるものがあるかと思いますが、次回は12月16日で、そこで人口ビジョンの素案、総合戦略の骨子、を検討していただければ、で第3回が例年の2月ごろ予定しておりまして、総合前略の素案について話し合っただけならば、3月の議会には総合戦略と人口ビジョンを報告したいと考えております。以上で、説明を終わります。

小林委員長	<p>ただ今、事務局のほうから説明がございました。</p> <p>いろいろと細かく説明していただいたのですが、ちょっと分かりにくいというか、この人口の問題なのですが、国の統計と村の統計と差がね、例えば先の国勢調査では村の人口は把握しているのですか。</p>
総務課企画財政グループ主任主査	先というのは今やっているものですか。
小林委員長	今やっているのは出たの。
総務課企画財政グループ主任主査	だいたい6500人くらいになるという話です。
小林委員長	6492、6496
総務課企画財政グループ長	<p>おおよそ6500という回答をいただいています。福島県の推計人口で10月1日現在のものは、10月26日公表になりまして、それを見ますと6496という数字になっております。</p>
小林委員長	<p>この地方創生の会議なのですが、1番の問題は、私は人口だと思うのですね。</p> <p>なんで人口減少するのだという結局高齢少子化という問題が、1番だと思うのですね。</p> <p>白河市さんが、民報さん、何時だったか戦略を出しましたよね。</p> <p>白河の人口が、平成72年度で4万人に落ちるのじゃないかということで懸念されて、出生率を1.55から2.23くらいに目標をおいたというふうにあったのですが、白河市さんもそれで5万くらいの人口を確保したいなというビジョンが、この前、発表されておりますが、今、一通り説明がございましたが、委員の皆さんからこの説明について、漠然として、なかなかこういうものが良いだろうというのは、いきなりだと出にくいかと思いますが、何か気が付いたことがございましたら、委員の皆さんから拝聴したいと思います。はい。長久保委員。</p>
長久保委員	<p>この漠然としているのですが、人口が減るというのは、自然消滅、亡くなる、高齢で亡くなるというのは防ぎようがないわけで、やっぱり、若い人に定住してもらって、子供を産んでもらう以外の方法</p>

<p>小林委員長</p>	<p>が、まずはないと思うのですね。 それ以外にあるとすれば、転入を企業さんに来ていただいてもらうしかない。</p> <p>今、長久保さんが言ったように転出を抑えて転入を増やせば人口が増えるね。</p>
<p>長久保委員</p>	<p>それと若い人に子供を産んでもらう、そしてやっぱりアンケートの中にあるように、子育て支援に若い人は課題を抱えていると結果が出ている。</p> <p>金銭的な援助もしていただきたい、そして若い人が今のマスコミなんかでも若い人が安心して出産子育てできる。</p> <p>これが安心してできなければ、ここに定住はしないと思うのですね。</p> <p>定かだか、分からない話なのですが、若い人はネットで友達どうしで、村内あるいは県内の交流をして、うちの方はこうだから良いよ、だからこっちにきなどか、仕事もあるよ、みたいなことで転出していかれる方もおられるようなので、その辺を行政としては、押さえておく必要があるのはと、当然、出産して子育てに入れば、当然、保育所あるいは幼稚園、小学校、というなかでどのような対策をして、子供を若い人が苦にならないで育てられるかを漠然とした、あれなのですがその辺が有効だと思うのです。</p>
<p>小林委員長</p>	<p>お陰さまで泉崎村は働く場所に関しては、沢山の企業さんがおいでになっておりますので、働く場所に問題はないと思うのですよね。</p> <p>子育て支援というか、どういうことを考えているか。</p> <p>若者夫婦を定住させるのが1番じゃないかな。</p>
<p>長久保委員</p>	<p>泉崎は、意外と保育所然り、小学校でも預かり保育、ここはよその町村に先駆けて時間を延長してやっているというのは恵まれていると思うのですが、その辺が先ほどのアンケートで不満が来ているのは、村外の企業に働きに行っているお母さん方、若い人はやっぱり6時とか6時半といっても、会社終わって児童館や預かり保育のところまで来るまでの時間が問題なのです。</p> <p>アンケートでその時間が長いほうが良いというのは、そういう方だと思う。</p> <p>ですから村内の企業さんにいかに勤めていただくかというのが、問題点だと思う。</p>

小林委員長	副村長、今度、預かり、児童館が一小と二小別れるようになったけど、それをちょっと話してやって。
副村長	児童館については、今まで一小も二小も幼稚園も皆、児童館に行ったのですが、これからは、一小の場合は空き教室を利用して児童を見て、幼稚園は幼稚園で預かり保育をやっていく、という形の形態で考えているところなのです。
小林委員長	保育時間は従来どおりなの。
副村長	保育時間は希望者に合わせて、ある程度、余裕を持ってやっていきたいと考えている状況です。
村長	ちょっといいですか。
小林委員長	はい、どうぞ。
村長	<p>今、長久保委員から時間の問題とか安心して働ける環境を作ることが大事だということ。</p> <p>たしかにそうであって、非常にジレンマになっておるのが、今までのパターンで、預かり保育をする、児童館で預かるという時に、割とこう、今まではですけど、正職員を中心に幼稚園なり、児童館で預かるという形が多かったのですが、そうすると労働時間の問題とか、いろんなことでなかなか、その土日は休みだという考え方があったりして、その辺をちょっと預かる側の受け入れ側で土日も厭わないというか、覚悟するとの心構えですね。</p> <p>そういった人材をこちらで確保して、需要に、要求に応じていくことが必要だと思うのですが、なかなかその辺がですね、今までは私は難しかったかなと思っているのですね。</p> <p>ですから雇う形態をうまく時間帯をズラしながら、何時から何時まで雇用だよということをやっている、きめ細かな形をこちらで作ってやらないと、時間のずれ不満が出るということがあるなと実感しています。</p> <p>ですからこれから、臨時でもあるいは、例えば今60歳くらいで幼稚園や保育所で定年を迎えますけども、まだまだ65歳とか70歳くらいまで働きたいという方がいらっしゃるのですね。</p> <p>そういった方をどんどん有効に活用して、要求に応じていくということが必要だと思っていますね。</p> <p>その姿が出来れば、時間帯の問題も解決するかなと思っています</p>

	<p>けども、そういった意味では、OB・OGの方をうまく活用することも方法かなと思っています。</p>
<p>小林委員長</p>	<p>安藤さん、兼子所長さん、農協の方では農家の花嫁対策なんてやっていないですか。</p>
<p>兼子委員</p>	<p>昔々は結婚相談所みたいなのがあったのですが、今はないですね。結婚相談員はいたのですが、実際、誰も相談に来ないというふうになってしまうと自然消滅みたいになっちゃうというのが現状で、今はまったくありません。</p>
<p>小林委員長</p>	<p>前はあったよね。いまはそういうのは、まったく。</p>
<p>兼子委員</p>	<p>ないですね。</p>
<p>安藤委員</p>	<p>青年のほうでは昔、ダンスパーティーを開いたりとか、前はあったのですが。</p>
<p>小林委員長</p>	<p>教育委員長さん、今の保育所を入れても良いのですが、幼稚園、小学校の体制というのは教育委員会の方では、何かを改革すべきというのは、具体的には、その現状のままで良いというか、やっぱり、なにかこういうふうにしなくてはならないというか、話はでているのですか。</p>
<p>山田委員</p>	<p>先ほど、副村長さんがおっしゃった別れてという部分もありますし、やっぱりニーズって、土曜日、日曜日、祝日も働いているお母さんが沢山いらっしゃるよね。</p> <p>ですから、例えば全体ではなくても、これは委員会で、全体で、ちゃんとした形での話として、議題に挙がっているのは別に、私個人的な意見なのですが、土曜日、日曜日、祝日も働いているお母さんに、ケアしていくための体制づくりが、まだまだ遅れているのかなっていうところがあって、ほかの市町村、例えば矢吹町とか西郡の中の保育所の職員として、お勤めをされていて仕事に関わりのある人が何人かいるのですが、保育所の先生なんかは、まるっきり休みにしてしまうのではなくて、当番制で、土曜日、日曜日出ていますという保育所さんもあったりするので、人数の制限はあるのでしょうか、そういう部分ではさっきおっしゃったように、ある程度のニーズをつかんでの細かい取り組みが必要かなと。</p> <p>お母さんたち、今、さっきもおっしゃっていましたが、ネット</p>

村長

配信とかいろんなツールを使って、他の市町村の人たちと連絡を取り合っていて、例えば、どこに家を立てて移り住もうかとなった時にどこそこが良いよという情報を持ち合って、さっき村長さんがおっしゃったように取り合いという形になってしまうが、じゃあ、どうして泉崎が選ばれるのというのは、何か仕組みを作ったら配信していくという取り組みがあっても良いのかなと私個人的には思います。ちょっと質問の内容とは、ずれたかも知れませんが。

皆さんご承知のように中島村が今年の4月から子育て支援ということで保育所幼稚園、無料化になりました。

これを我々は非常に注目しておりますし、関心を持たざるを得ないわけなのですが、これは全県からも注目されていますが、私は、これは今のネット配信じゃないですが、給食費まですべて無料なのです。

これは魅力ですよ。ですからそういったところからこれから、追いついていかなければならない。

泉崎村は6千人台の人口ですから、子供さんの数も限られていますから、白河市は泉崎村の10倍ありますけども、子供も単純計算すれば10倍くらいと考えると、中島村で3、4千万。どの程度と聞いていますか。

無料化して。3、4千万とちょっと聞いたことがあるのです。

村の方で人口比率から言って5千万前後かなと。

ただ、今でも3人目無料にしていたり、ただ、給食費はいただいていますけど。2人目半額とかやっていますから。

思い切って、これからの入学児童数とか子供さんの数わかりますから、具体的な数値をシミュレーションして考えていこうと、予算が伴うものですから、そこでブレーキを掛けながら現実の問題を考えながら、ということになるのですが、やはりそれは人口減少対策を考えたりすると、やっていく必要がある。

そっちのほうに予算シフトしていく必要が出てくるだろうなと感じていますので、具体的にシミュレーションしながらですね、例えば来年やった場合にはいくらかかるかと考えて、数値も出ていますので、みんな把握していますので、それはまずやらなくてはいけないなと思っています。

そのほか流失を防ぐとか就労の問題とかありますが、そういったことを総合的に考えなければいけません。まずは、子育て支援で安心して働ける環境を作ることからスタートすべきだろうなと。

それから子供の出生率の問題、結婚率の問題をいかにしてやっていくかということなのだろうなと思っています。

やっぱり大きな視点で見れば、子供さん4人も5人も、となって将来大学まで考えるととなると、相当な、大学ってなると家を離れて行って生活して、学費を払ってということになりますから。

そのことを考えると4人も5人もと無責任に考えるわけにはいかないですね。

だから、そこのところを国も含めて考えないと本当の対策にならないと思っているのですが、その辺も我々小規模な自治体でもなにか考えられないのかということ考えていく必要があると思っています。

その辺がポイントじゃないと思っています。中島さんで踏ん切りつけたのは、貯金にしている基金が20数億円あるようでございますので、いざという時はそこを2千万3千万切り崩してもまったく余裕があるのですね。

だから、思い切ってスタートした。時代にマッチした施策を実現したのでですね。

ですから、そのへんを考えながらやる必要があるだろうなと思いますね。

我々は来年からスタートする場合はいくらかかる、次の年はいくらかかるというのは、皆さんにお知らせしたいなと思っています。

結婚率とか出生率の問題、それこそ皆さんにいろんな意見を拝聴したいと思っています。

小林委員長

村長さん。この事業の目的達成というのは、お金をかけないでというのはあり得ないと思うね。

村長

こういう施策をとったときに、国のほうからお金をいただけませんかといいたいですね。ほんと。

地方創生、地方で色々考えてくれって言ったって、予算に限界がありますから、子育て支援って、限界が出てきちゃうのですね。

ほかのところをいかに節約しながら、経費を省きながら努力しようだね。

小林委員長

金かけなくてはね。

長久保委員

まったくお金の問題なのですが、先ほどの預かり保育、今、泉崎は5千円ですか、1人1か月。5千円かかっているのですね。

それでも今、人数が多すぎて、これ以上は無理ですよと幼稚園から小学校までの子供がいるのですね。

多分、若いお母さん方、若い夫婦は中島さんのように無料といわ

	<p>れるとどうしようもないですね。</p> <p>今、言ったように行政は予算から先だ、ただども若い人はこのくらいなら出していいという妥協線があると思うのですよね。</p> <p>今、5千円でも預かりきれないほどの預かり保育の子供がいて考えると、もう少し高くても預けるのではないかという気もしているので、どこで妥協が出来るか、行政で負担するばかりではなくて、その辺は接点を見つけるべきだと思いますね。</p>
小林委員長	<p>うちの家庭ならこのくらいはお支払できます、くらいの。</p>
長久保委員	<p>これ位なら払ってしまっただけで預かってもらって、その分、稼いだほうが良くて、妥協線を見つければ無料にも対抗できると思うのですね。</p> <p>預かり時間を延長するとか言えばアンケートにあるような不満も解決できるんじゃないという気がします。</p>
村長	<p>今の意見で預ける側でそこまで考えていただければ非常にありがたいですが、やっぱり無料を求めてくるのですね。</p> <p>我々は、本当は、その辺までやりたいのですが、例えば預けない家庭もあるのですね。相当数。</p> <p>そうすると全体の税の公平感と考えると、そこにどんどん投入して不公平感が出ないのかと。</p> <p>保育所もそうなのです。預けない。家庭で一生懸命、家族で、爺ちゃん、婆ちゃんも含めて一生懸命努力して、自分の家庭で責任というか、環境を作る方もいるのですね。</p> <p>それを働くために保育所をお願いしたい。そのために無料にした場合に、ある意味での不公平感が出るのではないかと、税金を使うわけですから。</p> <p>私は、幼稚園なんかは、だいたい、ほとんど100%村で幼稚園に上げますので、そこからは無料化を早くしたいと思っていますのですね。</p> <p>それと今の預かり保育とか、保育所はちょっと区別してもいいのかなと、正直、私は思っているのですね。</p> <p>そうしないと預けないところはそういう感情にもなりかねないのですね。</p> <p>その辺良い方法があるかなと、反感があっては不味いのですね。そここのところを考えています。</p>
小林委員長	<p>秋山さん、企業の方から見た村の問題をどう考えていますか。</p>

<p>小池委員</p>	<p>そうですね。一通り目を通したら素晴らしいものをお作りになって大変だったなと思いますね。</p> <p>その中でも魅力のある村を作らないと消失は仕方がないのかなと思いますね。</p> <p>周りには便利なところが結構、白河市も含めてございますので、そういった面で、例えば買い物ひとつにしても、大きなスーパーがないから遠くに行ってしまう、ですとか、コンビニにしたって、点々とあるような状況で非常に住みにくいのかなと。</p> <p>今回、私どもの今年になって、結婚の届出がでてきたのが5組。あとはお子さんが生まれるというのが3世帯。</p> <p>泉崎村よりも、という意見が多いような感じがします。</p> <p>なぜ、というところ、なんですが、やはり不便さを感じるというところが多い。</p> <p>ですから、とりあえず魅力のある村づくりをして消失をさせないというところを考えたらいいのではないかと。</p> <p>そうして行く段階で、魅力のある街になれば人も入ってくるし、そうすればお子さんも増えてくる。</p> <p>順番が難しいのかなと思いますね。</p>
<p>村長</p>	<p>若い人たちは機動力ありますし、車での移動は苦になりません。</p> <p>ですから、環境は良いということがあって、子育てする環境が整っていて、なお且つですね、子供を教育する機関、まさしく、私は教育環境を充実することが、若い者の魅力、親の魅力になるのではないかと。</p> <p>今、言った不便さを解消するような上回る魅力ですね。</p> <p>私は大事だと思っているのですね。</p> <p>急にお店を誘致しても来ませんので、なんかね、そっちの方向も大事かなと思っているのです。</p>
<p>小池委員</p>	<p>村としてのPRをもう少し考えてみたらいいのかなと思いますね。</p> <p>ホームページではいろいろと拝見することはできますけども、それ以外にも、あっこんなこともあったんだというようなことも出てくるような気もいたします。</p>
<p>村長</p>	<p>介護施設なんかね。ご承知のように、太田川のケアハウス。</p> <p>南東北の老健施設があったり、今度も計画中でありますけども、小規模30床くらいの介護施設を作るという。</p>

<p>小林委員長</p>	<p>福祉面は力を入れていこうと思っているのですが、現時点でも近くに介護施設が多い。</p> <p>村立病院、委託はしてありますが、病院があるというのは、決して悪い環境ではないのですね。</p> <p>ですから、巧くその辺は魅力を発信すべきかなと思っていますけど。若い人にはピンときませんけどね。</p> <p>子供の数ね。今日、明日、ぱって増えるものでもありませんし、小池さんがおっしゃったように、泉崎に住んでみたい、泉崎に永住したい、流失を防ぐために転入者を多くする村づくりが、根本的なことで大事なことだと思いますね。</p> <p>朝日ラバーの堀さん、何かございますか。</p>
<p>堀委員</p>	<p>転入転出のある起点として、進学と就職と結婚ということがあると思うのですが、当社、毎年、採用活動を少なからずしているのですが、特に県外から人がまず取れない。</p> <p>まず取れるのが福島県に在住の人で、県外で採用活動に行ってもほとんどですね、うちの名前もほとんど知らないですし、今の若者に関しては、福島県自体の場所も知らない子もいますし、やはりそれなりの福島県として、泉崎村として、先ほど秋山さんが言ったようにPRも必要だなと思います。</p> <p>例えば具体的な施策として、泉崎村の企業で採用活動をするときにですね、例えば、泉崎村の企業が集まってですね、関東地区ですとか、関西とかに行って、採用活動を地道にやるとかも一つの案かなと思っています。</p> <p>それと結婚に関して、先ほどお話しあったのですが、この資料を見ますと、独身の方で、今後、結婚について、結婚の予定がある、結婚したいという方が56%位います。</p> <p>ということは、やっぱり結婚したい、結婚したくてもできないとか、という現状があると思いますので、やはりそういったような結婚する機会をつくるチャンスです。</p> <p>例えば層別に分けてもいいと思うのですが、若者世代、それと中高年世代で結婚されていない方もいると思います。</p> <p>そういったところで、ご縁を作る機会を泉崎村として設定するとかも必要かだと思います。</p> <p>先ほど言ったように、当社の若い世代も、最近、異性に対して興味がない人がかなり出てきています。</p> <p>男なら男だけで遊んだりとか、飲みに行くのもほとんどないです。若者は、誘っても来ない人が多いです。</p>

小池委員	<p>女性は女性だけの女子会ということで男性に興味がないとか。だから、何か強制的に機会を作れば、それで若い者は楽しむと思うのでそういったような機会作りが、非常に大切なんじゃないかなと思います。若い世代はどんどん変わってきています。</p> <p>私どもの中核工業団地の中で、入中の方々とゴルフをやっているのですが、その打ち上げの中で、皆さんで合コンでもやりましょうかと話も出たことがあるのです。</p> <p>やはり団地の中でも独身の男女がいらっしゃいます。そういった機会を持つのも面白いと思いますね。</p>
村長	<p>参加してくれるかなという思いがありましてね。</p> <p>企画することは、割と容易なのですが、それに応じてくれるかなと。</p> <p>強制もなかなかできる時代でもないですし、でも、やらないよりはやった方がいいですし。</p>
小林委員長	<p>1組でも2組でもまとまってもらえればね。</p>
村長	<p>職員でも何人かおりますし。</p>
小林委員長	<p>そのほか。どうですか。</p>
高橋委員	<p>先ほど特徴的な魅力というお話がありましたが、先ほどのアンケート、村の方では魅力的なことを言っていました、魅力が分からないというのと自然しかないというのは、村に魅力がないからなので、魅力を村に感じていないと私は外から見て感じています。</p> <p>便利ではありますが、とりあえず20分から30分の距離感、というのが白河にあって、泉崎が拠点となるというのは、今のところ難しいかなと。</p> <p>駅も大きいものはないですし、インターもないですし、そういうところで言えば、大きなところを補完する立場をしっかりと考えていった方がいいのかなと。</p> <p>先ほど村長が言われた教育は、我々子育て世代はやっぱ良い所に入ってもらいたいというのが、親の素直な気持ちですので、いかに小中のレベルを上げていくか、というのが一つのキーワードになる。</p> <p>教育と医療というのが既存のツールなので、そういうところをどういうふうに出して行くか、というのをどっしりと考えていった方</p>

<p>小林委員長</p>	<p>がいいのではないかと。 私、来たばかりで申し訳ないのですがそういうふうに思います。</p>
<p>古川委員</p>	<p>はい。ありがとうございます。民報の古川さん。</p>
<p>古川委員</p>	<p>今の時代ですと、一つのまちですべてを備えようといってもなかなか無理だと思うのですね。 そうすると、白河地域定住自立圏構想ということで、県南9市町村が連携して、いろいろな、県南9市町村で連携して盛り上がっていきこうということを、提携したと思うんですが、そこら辺を、面として、県南の9市町村として進めていくことも必要なこと。 各市町村で、全部、この人口ビジョンを作っていますし、総合戦略も作っていますね。 私もたまたま西郷村さんにお邪魔したり、矢吹町さんにお邪魔したりして、このビジョンとか、いろいろ見させていただいていますけど、全く違うものではなくて、方向性は一緒だと思いますから、違いは出ない、そこであれば、泉崎らしさを出して行きつつ、9市町村の連携を模索しつつ、ということがあれば良いのかな。 もしかすると子供預ける、近い所が一番いいんですが、北には中島、矢吹があって、南には白河がありますから、そっちまで預けに行くのかも踏まえて、連携が出来るということも考えていけたら良いのかなと思いました。</p>
<p>小林委員長</p>	<p>この点について、村長どうですか。保育の広域連携。</p>
<p>村長</p>	<p>子供の預け入れとかですね、お互いに協力し合って、勤め先の関係とかで、極力お互いに、協力し合って預かるという形はとっていますね。 ですから、それはうまくいっているのかなと、村の場合には基本的に待機児童とかをゼロにしようということで、ずっとやってきています。 だいたい次の年にどの程度の入ってくるかもわかりますので、その辺は、最低限、都会と違ってここしかないという、待機はゼロだという姿勢でいるのですが。 そういった意味では、街場よりは、はるかに環境は整っているかなと思うんですが、それにプラスアルファ部分をいかにして、魅力を作っていくかということだと思いますね。 連携は取りながらやっています。</p>

小林委員長	<p>団長さん、人口減少に伴って団員の定員は割れているのですか。入る人がいないなんてことはないですか。</p>
小林成吉委員	<p>定員割れはしています。ですから、OBの方に手伝ってもらったりしている状況なのですが、あとですね。</p> <p>団員に聞いてみますとまだまだ独身者多いような気がしますね。今の若者は、グループで行動する団体行動はあまりできないような状況ですね。</p> <p>下手なですね。個人個人で遊びに行っちゃうような、まとまって何かしようというのは、できていないのかなという気がします。</p> <p>あとは、企業で3交代とかあるので、出会いの場が少ないのかなという気がします。</p> <p>村の方でも出会いの場を作ってあげれば、少し変わるのではないかという気がします。</p> <p>本当に今の消防団は飲み会なんてしないのですよね。</p> <p>今日、飲み会やるかといったって、用事がありますとってパーッといなくなってしまう。もとは、こればかりだったのですけど。</p>
小林委員長	<p>消防でこれをやっていた安藤さんどうですか。</p>
安藤委員	<p>家の息子なんかも2, 3年前に混ぜてもらったのですけど、もう帰ってきたのというくらい。</p>
小林委員長	<p>そ菜部会なんかも。</p>
安藤委員	<p>そ菜部会はいっぱい好きな人が多いから。</p> <p>消防団ですね。すぐに解散して自宅に戻ってきますね。</p> <p>あと、看護師の娘もいるんですが、出会いの場がないようで、結婚に興味がないようでずっと家にいるといってるんですよ。</p> <p>やっぱり出会いの場を作ってあげないと、自分らで、さっき団長さんがおっしゃいました、大きなグループでイベントしようという雰囲気というのは、昔より薄れたのかなという感じがしますね。</p>
小林委員長	<p>グループ活動が出来ないというのは、隣組だって今そうだからね。</p> <p>夕立が来て隣の布団が濡れていてもかまわない、というようなお付き合いでね、だれだれさん、雨が降ってきたぞなんて声をかける人がいなくなってきた。</p> <p>人と人のつながり、それから、出会いの場がないというのは、昔は、古い話になりますが、おらひと夏で下駄3足パーにしたぞ、な</p>

<p>安藤委員</p>	<p>んて、盆踊りでね、青年の時代に各村の盆踊りに行って、嫁さん、探してきたりね。</p> <p>便利とか便利でないとかは、車もあるのですが、できれば村内に大きなショッピングモールみたいなものがあれば、買い物というと白河に出なくてはならない。</p> <p>泉崎にそういうものが全然ないですから、買い物というと他の市町村に行かなくてはならないというのは何とも不便ですね。</p>
<p>小林委員長</p>	<p>県南地方の中では、利便性がすごく良すぎて、福島空港まで20分、矢吹インターまで3分なんて、JRの泉崎駅もあるし、利便性に関しては素晴らしい場所なのですよ。</p> <p>話をまとめると、高橋さんがいうように村に魅力がないのかなと。やっぱり、魅力ある村づくり、先に考えた方がいいのかなという気がします。</p> <p>その他にございませんか。</p> <p>皆様からたいへん貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>安心して暮らせる快適に暮らせる地域社会づくりの必要があると思います。</p> <p>これは皆さんも考えていることだと思うのですが、仕事づくりをどうやっていくのか、いろいろな分野から大変貴重な意見を承りました。ありがとうございます。</p> <p>人口減少、働く場所の問題等共通するご意見が多かったように思います。</p> <p>今日のところは、第1回目ということで、貴重なご意見を頂いたことに感謝を申し上げます。</p> <p>本来であればこれから意見交換ということではありますが、締め時間が近づいておりますので、ただ、これだけは言っておきたいということが、皆さんの方からあれば。</p> <p>本日は貴重なご意見を承りまして本当にありがとうございました。以上をもちましてすべての議事を終了させていただきます。ありがとうございます。</p>
<p>司会</p>	<p>—閉会—</p> <p>小林委員長、ほんとうにありがとうございました。事務局からの連絡事項でございますが、先ほどご説明したように次回の開催日程は12月16日水曜日になります。午後1時半から予定しております。本日いただきました、ご意見等を組み入れた素案をお出ししたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。以上をもちまして、</p>

	<p>第1回泉崎村地域創生・人口減少対策委員会を終了します。本日はありがとうございました。</p>
--	---